



208
81
157

夜凡話翁丸物語

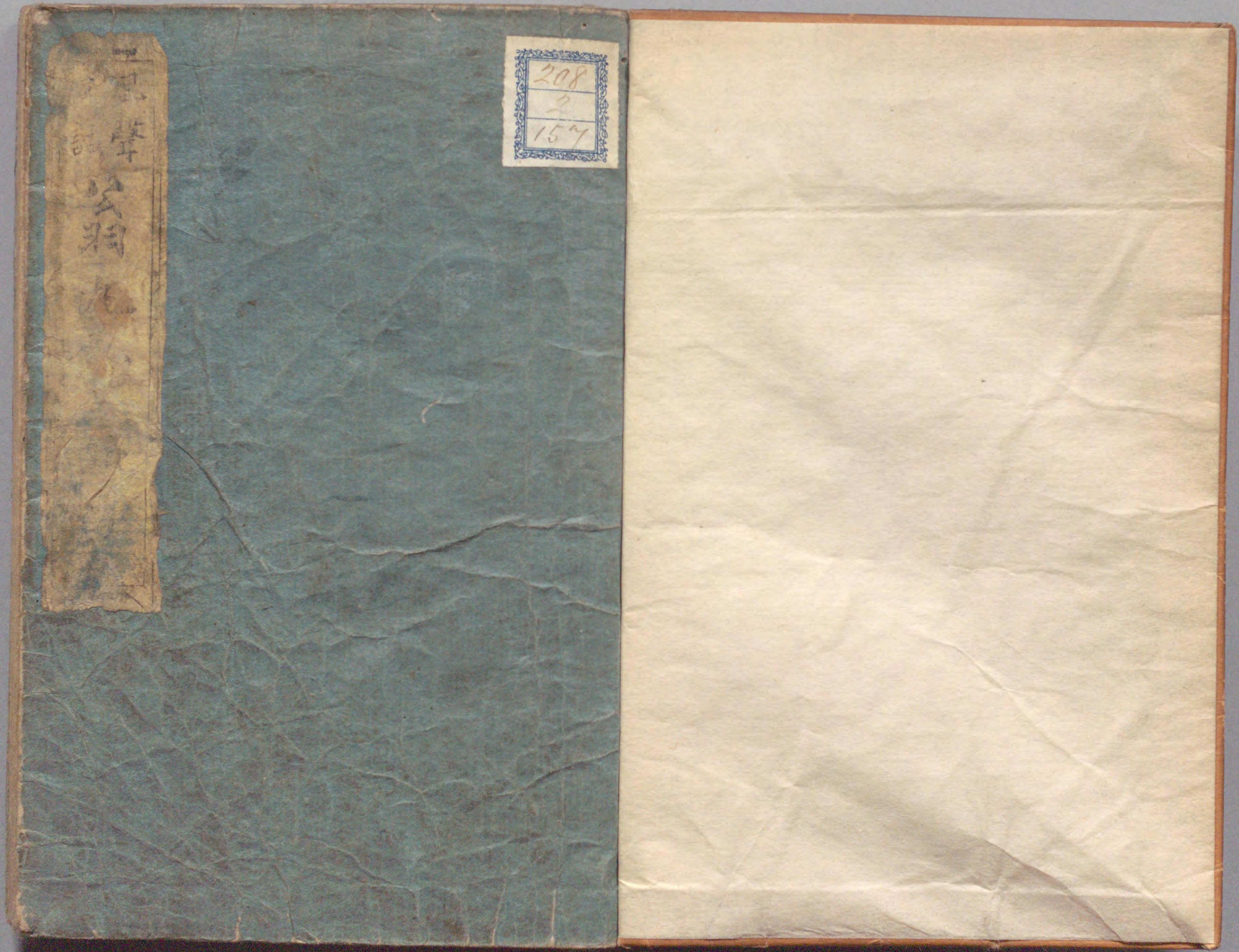
一、二、止

翁丸物語 全



国立国会図書館 翁丸物語 208-157

ガラス使用



国立国会図書館 翁丸物語 208-157

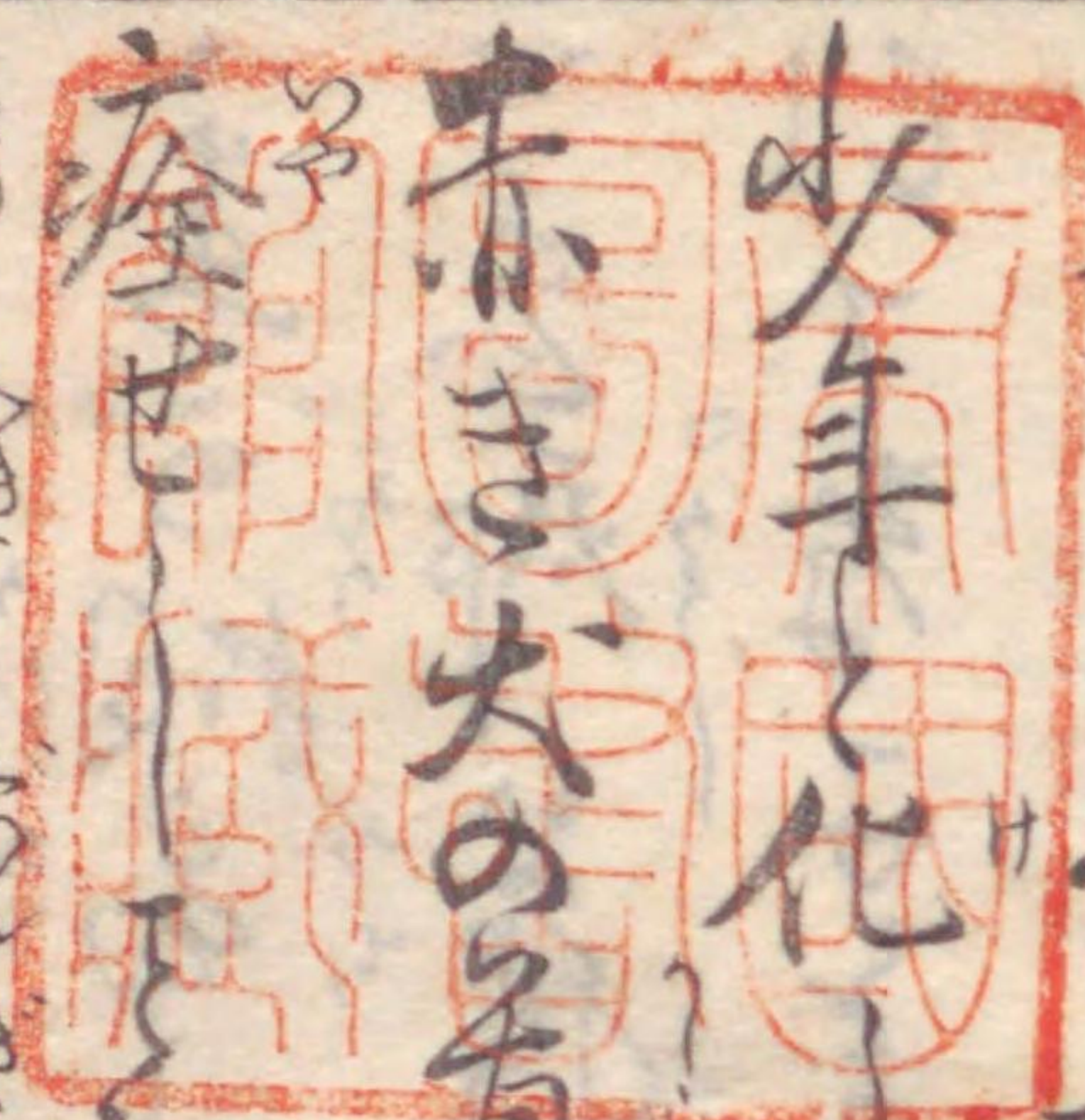
ガラス使用

208
2
157

翁丸物語
208-157



風聲 夜話 翁丸物語序
 名醫類聚子 白衣と著せし
 少年と化し 怪を著し 福田志子
 赤き火の青瑯琊の二姉の奇伝を
 産せし 縁せし 云々 獄本
 癡癖 頑凝 不し して よく 奇怪 といふ
 俗語 あり なる 昔 あり 西國 あり 四



国子大首を記するはるるをあるを盛
 觸と揺るは其は海國に於て其の何
 一志郡藤原子美良ましを其子教
 以て孝子と名を記する高麗天子の竟
 中の一書と得て表題とす不揮字し
 只異名のみ翁丸お伊の命に
 大正十一年
 大正十一年
 大正十一年

丁卯春

江戸寓居ルためて

十返舎一九識



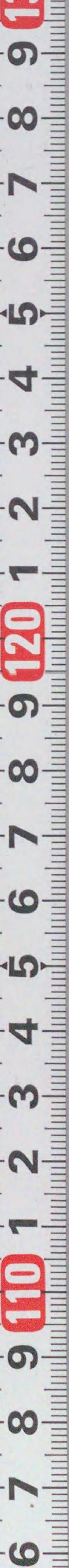


島貫丹平

天性
仁慈
一慎
是故
柔弱
疼哉
薄命



忘井源太兵衛





形容

まろやかな
木綿の
西のかかし

故源太兵衛
娘律

挿しの尻

やんぱ

たり

まろやかな

外面秀異
内主野淫
諂諛上口
智舌害人

故源太兵衛
妻於勤



性貨狼戾
義氣凜乎
梅花魁首
雪中葭陽



旅行者 觀衆
實名 忌井源三郎

翁丸物語上編除目

忌井源三郎と其妻の太とまこと不活
源三郎と其妻が人斬り海盜悪く結
糸山と丹三郎の配偶と遠くを去る結
故源三郎と其妻が人斬り海盜を好む結
かみ里川の智恵子と改らんとする源三郎の結
丹三郎と其妻が通里と忌井源三郎と教習の結
忌井の畑大守と其妻と其子と其子と其子の結
源三郎と其妻と其子と其子と其子の結

翁丸物語下編巻目

丹波河津おかりん異恋恋話
 旅僧石佛とあつておんを恋する話
 修験者銀葉と夜神とのこゝろ話
 石居の主夜高子おんを恋する話
 銀葉人の夢と買物おんを恋する話
 丹平奇夜と銀葉とを恋する話
 大がしお神と銀葉とを恋する話
 銀葉おんを恋する話
 崩の怪と銀葉とを恋する話

風声 夜話 翁丸物語 上編

○發端

十返舎一九著

勢乃加津の南小一志郡夜深といふ所あり。その地ハ
 古神宮の跡。厨やて。毎年塩九斗と内宮にお供
 せしむ。昔は名譽士の里といふ。今ハむじら小一志の
 斎院あり。物子息といふ。孝子と守り。後小一志
 後の小一志といふ。大上大の神と銀葉とを恋する話
 系とある。小一志并源を恋する話。御代友代といふ話
 傳小一志といふ。安富屋昌といふ話。他の文並

びり。物も見えず。うらむ。海をき。傍を。早ぬ。あひひ。二
 人あけ。も。お。み。は。海。の。放。せ。は。箱。あ。て。孫。あ。ぬ。
 控。の。血。ま。ま。ま。び。の。女子。ゆ。と。高。國。の。北。宮。何。来。ど。の。
 惟。被。ぬ。あ。し。は。ら。ま。由。婦。子。縮。を。所。ど。の。くら。が。体。
 情。小。あ。の。う。あ。ふ。え。い。と。嫌。ひ。父。の。命。は。任。せ。ざ。ぬ。が。あ。
 業。と。憐。む。ま。の。あ。く。て。あ。と。七。十。の。老。の。坂。小。杖。を。
 つ。そ。ふ。え。の。腰。ま。ま。し。ま。夜。を。歩。む。が。何。年。の。あ。く。
 神。伊。の。境。と。ま。う。ん。と。深。夜。の。馬。小。首。を。そ。ま。は。つ。て。
 麓。ま。ま。ま。の。宮。あ。ま。の。た。ま。ま。が。う。ま。後。村。の。海。川。と。

う。お。う。う。り。の。子。向。ま。よ。り。は。身。持。の。人。は。た。も。あ。く。
 血。ま。つ。ま。ま。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 人。推。打。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 う。の。お。て。ま。あ。う。り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 赤。け。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 大。日。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 と。の。て。お。つ。け。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 使。小。あ。り。ひ。田。力。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 畜。獸。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。





イセ宗宮ノ夫

忘井原太兵衛



借の太くはあぬが。後小退をあらまきさぎ。一にこれ
 ももま入色を。一人の男は古賢のてく我々の向ふ精を指
 ひつさそ。そを後境にさぎ。かゝる惣黙の法具の好むもの
 ち殺し。後の難を除くを死せり。内此老体のすつり
 あつて怪家をも。あつるに。あぬ。解ふ。法をま出付者
 ともがやうまを。思つる。いふ。さぬ。あも。貪欲の。あふ。かゝる。法を
 不ち。あぶ。あつる。人と。推察し。懐中より。金一。枚。と。とり
 出。し。や。り。る。は。さ。も。か。く。も。公。ち。あ。れ。畜。生。の。殺。さ。る。と。思。ふ。は
 志の。ひ。も。我。お。も。う。ふ。む。ん。あ。つ。か。か。あ。れ。せ。げ。金。を。さ。あ。て
 その。火。を。求。め。て。一。渠。が。あ。る。後。と。あ。つ。る。人。の。の
 藤。舟。ふ。そ。あ。て。死。刑。と。ゆ。つ。あ。え。ら。れ。よ。し。や。り。し。む。い。ん
 男。は。是。と。ま。て。さ。ぐ。ひ。の。影。と。を。合。せ。お。う。り。り。が。忽。面
 と。や。り。し。げ。さ。や。ぎ。ま。ま。で。は。何。と。さ。れ。あ。み。出。せ。の。と。ま
 宵。き。さ。ぎ。と。ま。あ。ぶ。げ。太。が。一。命。う。り。し。と。し。や。り。し。む。い。ん
 け。り。る。あ。つ。る。影。も。我。く。究。鬼。中。と。し。し。が。あ。る。影。も
 か。う。し。り。り。難。路。は。及。ぶ。付。へ。湯。火。あ。い。し。う。ん。の。影。も
 り。ね。が。も。れ。く。し。て。金。子。の。中。文。と。し。し。ま。だ。あ。つ。る。文。と。し。し
 ち。の。く。中。生。徒。の。解。ふ。う。ち。の。も。て。口。ん。だ。あ。つ。る。ま。ま。と。し。し



さねやむらも今も大の事なまらるゆゑ倒少らむぞ。
 此身の人をさして死に散れと申さるる事なき
 かまが首ふかけあえゆくゆゑ。後ゆゑ教本の跡を
 見るにさるる程にあり。今は大かくのていへばと合
 酒丸の売書どもお家うむひりて酒者ふえと申ひ
 しお家のつきて自空あつとて懐く。後お教んと
 せしあつて。さねやの海をさしぬるや。合を合
 之。さねやとさくひしむけし。さねやの事も。さねや
 なるおや。お家と申さるる事なまらる。さねや
 体ゆゑ尾と申さる。我もて怪ひるゆゑ。お家と申さる
 目もこの事と申さる。さねやの事と申さる。さねや
 の事と申さる。さねやの事と申さる。さねやの事と申さる
 かりて。さねやの事と申さる。さねやの事と申さる
 之りりるが。それより。お家と申さる。さねやの事と申さる

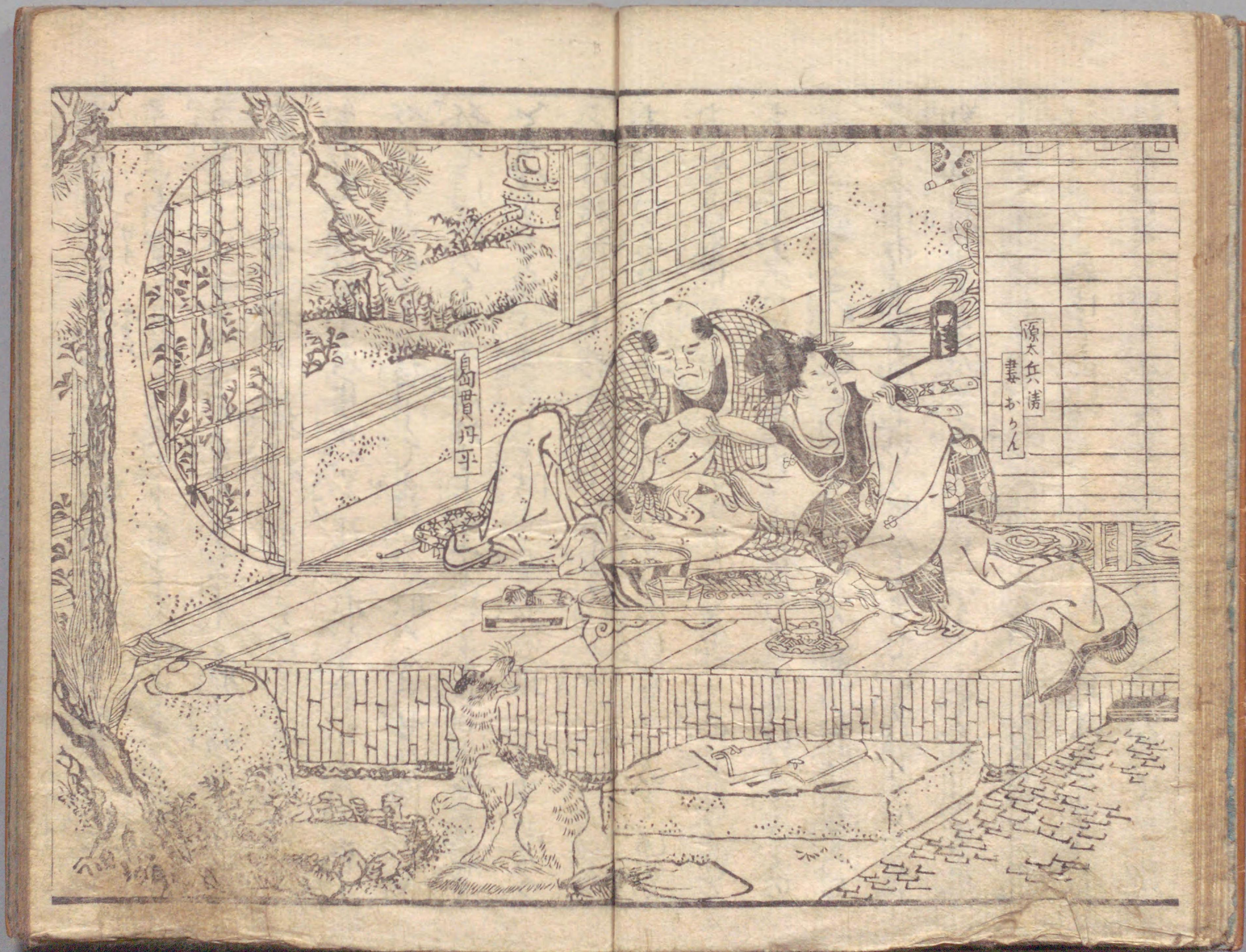
第一章

然るふこの志井源太を勝りかゝる事なまらるゆゑ
 先主源太をさしぬる事なまらる。後ゆゑ。お家と申さる
 性。後ゆゑ。お家と申さる。さねやの事と申さる。さねやの事と申さる



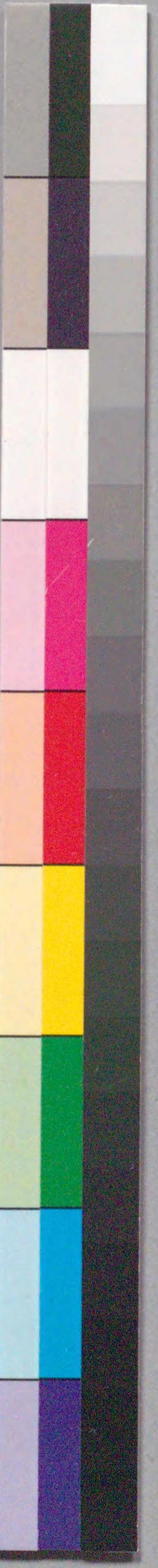
と史ぬあちう。苗跡とお後かきしるがに字をひふ及
 乃中此種もよりりるゆへあつおまお後し何年
 お箱の縁えんとてあ聲中告子して家書とゆづつて何
 時とき始はじめし。まが一の芳と傳つたふる。こまめおまかせうの
 北高きたたかどのひまゐる。娘むすめおまのうとる。まがと
 まら一たるふはおまのまらくお昔むかしのむ。彼かれをて後傳と
 のひとておさちお記しるうちより借籠かりかごを出だしてまお出でるあり
 けしとてぬとむひて後傳ごでんひもまらるが。まらひより後
 家いへあもえうむと生な産うまをゆふうえんとしひもあちてま
 おまといふやいらひよ北高きたたかどのむ後傳ごでんをひとひ
 志こころぬを別傳べつでんまお急いそぎのかりひとあし。傳つたるのま
 ちびつてまのび違ちがひるが。まらとむもまら年とし。結むすむと
 病いひひのちうされぬ。むとあしとあつあひはねが。おまも
 こもふ。おあしとまらひとあしとせんま。おまひとるふとよ。
 歌うたを能あたふ。こらうが。まらひのちらうふあや。まらと
 命いのちとあまらく。公こう申まをあつる。は海うみもあつら。まらひと
 親おやのまらぬ。女むすめ申まをあつる。まらひとあつる。まらひと
 結むすむとあまら。まらとまらひとあつる。まらひとあつる。





6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

ひまとのりかろんとしそふし合せ。あむて向婚致の人と
 とのこお候ふかよひらるまねもね坂のあま山麓島
 小井戸能あつて嫁入りしぬがの嫁致の木の逢ひと友し
 をあ清しつるまねそ中合せおほくらんをゆか丹東も娘
 おせちとついでしよまう。境内の逢名よふて。逢ひつは
 出逢し。かせら逢ひつがり中くう風俗のあまも世せめけ
 して逢ひ悪そのまねやりあふは公中懐物にしてまづじ
 げふ赤をまねこのわらふまよして志だくふおこがね。まづふ
 風情ま又丹平もまねとまづし。まふあまうちをせめめ。
 入のまま丹のいあも島あま今治人ふれもまねにや
 かうま直の上回友のよまもあう。又まあうんあのがりけ
 あるま。ひいさまうままめらるゆへお逢お逢細ひままふ
 白良屋をえまね。お逢の日程をままありなるおまふま
 越原まま逢の十七回忌小あう。嫁婿その入るあま
 作事といまままん。僧侶と招けお逢お逢るのりの
 孫ままめらあつめ。逢をい。借中ままあうらるま
 北島まのふ逢をま。お逢のいもかんでままら。まら
 おまのま父の年回あつめ。ま逢あままづのいまま





さういふ出いふ女めさし出がぬいりうなぬいもあつり
北島きたしまのいも若いの指きりどのお別わか津つちを平ひらをうらむ
血ちまうあひい海うみの人はひと標めをいしあひびあつり
まどとさそそけい交まじ津つひい小流こりゅうんんとせきくせき釋しやく津つ
あつれあつ自みづか女めと。いりそとあつり。海うみをさあざりし。
今いま又またあふうてあふ我わがは津つひいいが色いろ香かは津つひいいあま
結むすぶぶどのいも思おもひひににまされ。かそ娘むすめと屋やむ。夜よ
まは海うみ若わか弱よわの心をさあつあつの我わが修しゆる物ものあつりあつものあこの
お書かき六むゆづりづりいんいんとあつれ。津つひいいの休やすむむより

あつりあつり。渠みちふ志こころまうとまへんまへんの肉にくあぬが。ゆ果ゆ
心こころををあつり。二ふたつああ源げんををまへ。胎た子しのとれ。日ひをを挽ひち
うくめされ。海うみの岸きしおまの女め人ひとも。世よの妻つまの子こあつり。その
わらうがぬ。ああの若わか弱よわあぬあも。成せい長ちやうのうう入いり。ををあつり。と
あつり。ああの志こころあつり。ととあつり。いりあもあつり。ああの
あつり。苗な糸いとととあつり。我わが血ち糸いとああぬあが。枉かま道みち
は若わか弱よわの力のあつり。いり。ととあつり。ああの血ち糸いとああぬあが。枉かま道みち
大切たいせつあつり。ととあつり。いり。ああの血ち糸いとああぬあが。枉かま道みち
ののあつり。ああの志こころあつり。いり。ああの血ち糸いとああぬあが。枉かま道みち





伊三二

大良作

弥太夫

おらん

源太兵衛

情次郎

お里つ



かゝつていふは。申口とて。初とて。まことのあはく。こゝろ
清ひくが。は。父身。折村の。ち。他といふ。の。り。の。信。事。手。小
招き。し。は。席。不。あ。り。る。が。家。不。志。の。と。あ。つ。あ。て。い。ふ。や。う。我
漸く。は。清。縁。者。と。あ。つ。て。あ。ら。も。あ。ら。は。い。く。あ。れ。も。
長。こ。こ。中。に。あ。る。べ。い。あ。ら。う。娘。婿。の。も。あ。ら。い。の。本。あ。ら。う。時
あ。ら。も。あ。ら。あ。ら。う。されど。今。あ。わ。り。して。本。不。久。と。ま。る
あ。ら。も。む。つ。つ。は。い。ふ。ま。ま。と。く。清。ひ。く。と。連。ぬ。の。我。方。小
初。べ。い。そ。尚。人。を。あ。ら。娘。と。む。え。ん。や。う。も。は。さ。し。き。不。何。て
清。ひ。く。あ。ら。い。子。細。あ。り。て。は。父。身。と。い。は。さ。う。度。い。れ。ば。は。え
縁。力。の。と。延。し。は。あ。よ。ぶ。べ。い。と。折。地。村。へ。い。り。い。り。ん。は。
何。の。故。障。あ。ら。ま。さ。き。あ。ら。う。ま。と。あ。て。あ。ら。い。づ。い。ん。な。と
と。清。ひ。く。あ。ら。い。ふ。さ。う。あ。き。及。て。あ。ら。う。の。仕。事。あ。あ。よ。ひ
く。う。と。て。清。ひ。く。と。解。入。さ。な。え。ん。丹。平。か。ん。も。い。あ。ら。う。こ
か。ら。べ。い。必。免。娘。と。さ。う。ん。と。ま。る。あ。ら。い。は。臺。上。掃。む。ら。う。い。
只。知。年。の。官。數。を。う。そ。行。要。あ。ら。う。初。と。て。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
源。を。清。ひ。く。大。き。い。改。依。い。ま。と。あ。ら。い。は。下。の。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
去。あ。ら。う。清。ひ。く。あ。ら。い。の。あ。ら。う。あ。ら。う。さ。う。か。ら。あ。ら。う。の。あ。ら。う。
い。あ。ら。う。あ。ら。う。は。い。ん。の。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。

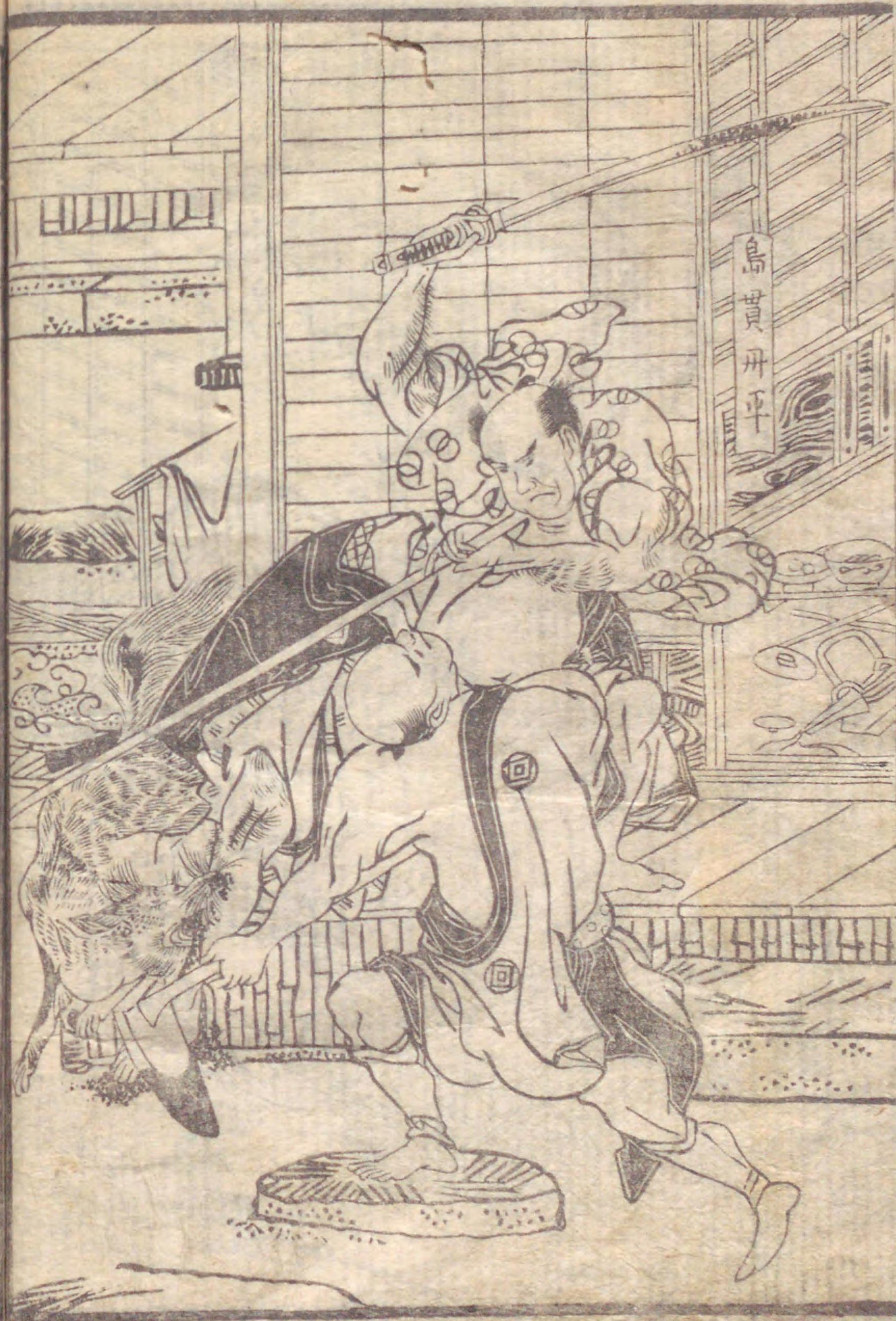
6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



弥太夫







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

何れ散まれば志こころをあらんとも形と伺ひ居る小
 又後深更清はくお里のが娘も縁なきそのひ
 家内さめればこころ家門知音ありの取物りむくつお
 小市とせせり。然る小をぬぬ丹平る歌おも一様と推入
 志井方入来る小深を思ひこころ丹平お思ひ
 かのこころがさあらぬ体小推扱一皆てそころはあく
 出さざれば化るあくもてあしれぬ丹平日ごと
 面伏ちる体小中なるは是もて旧友の好きこと口をれ公
 得ちるあしりも。こころ下の内安小入るあしりも
 志れを我今又は悔悔とせむ小いそぬはゆるも許容
 あつてはあしりも。お公孫を孫がふあつて。我小あつて
 鳴さこあしりも。お公孫がくのごく一様と推入へ四悦
 小来りうら。清はくごのあしりも。面會せしうと来
 りる女お里のあしりも。お公孫を孫がふあつて。我小あつて
 後知も中述こころ。お公孫を孫がふあつて。我小あつて
 此非を悔い別公あつて。お公孫を孫がふあつて。我小あつて
 と。お公孫を孫がふあつて。お公孫を孫がふあつて。我小あつて
 河原のりてあしりも。お公孫を孫がふあつて。お公孫を孫がふあつて。我小あつて



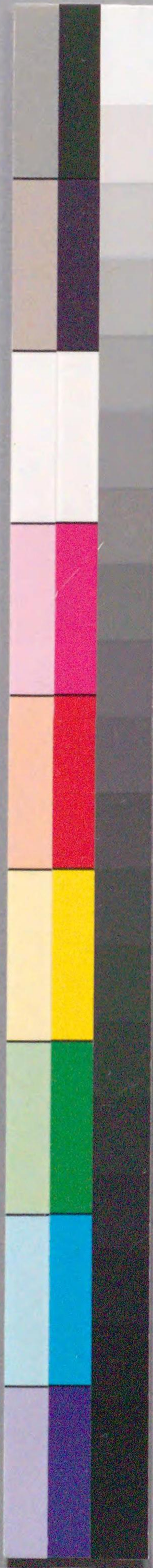
208
2
157

夜風
話声
公羽丸物語
上編畢

ち
のち
後ろ
ぞ

おのひあひされり





208
2
15⁴

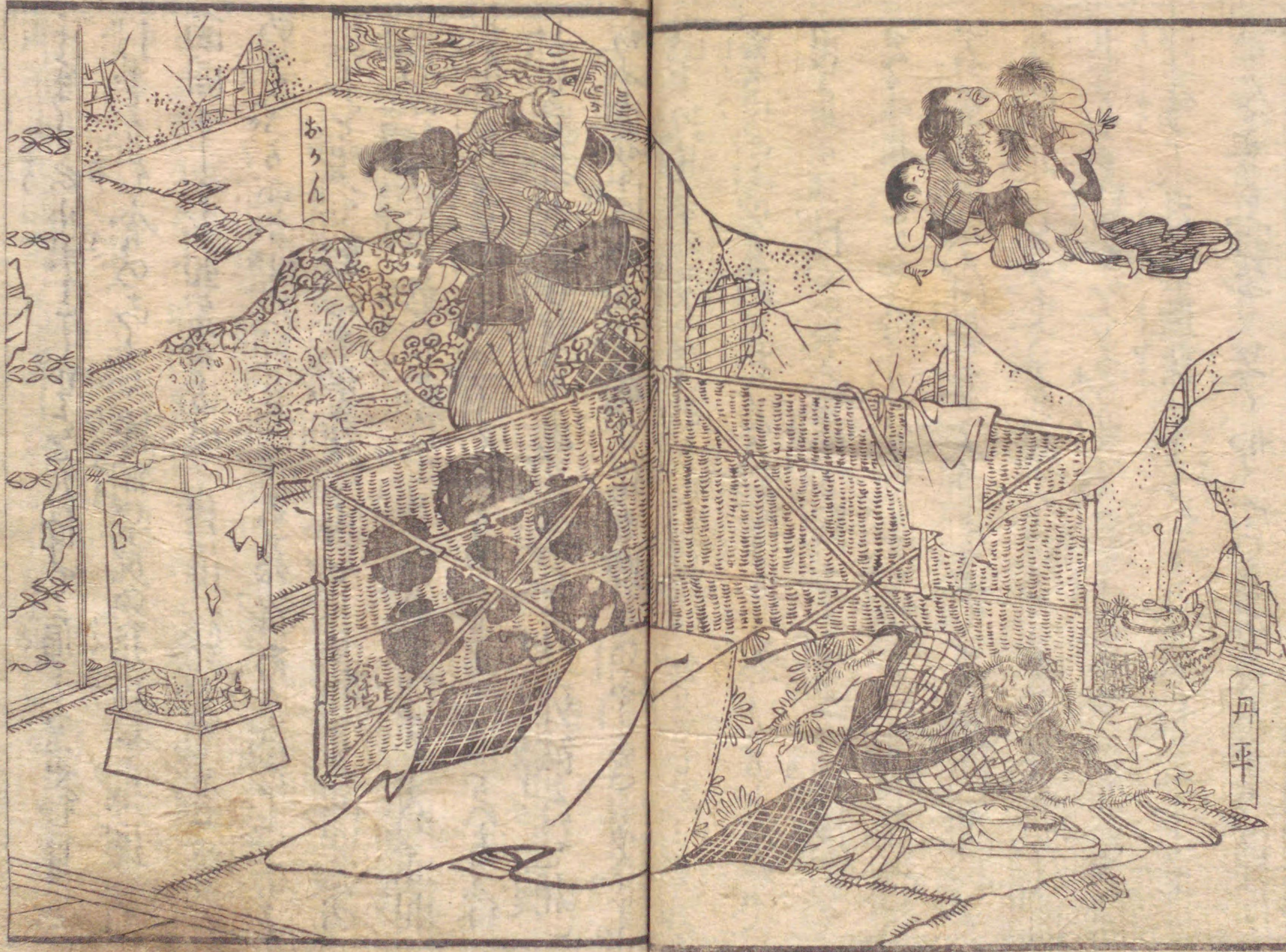


国立国会図書館 翁丸物語 208-157

ガラス使用



6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



さきかゝる小用を。とをたは捨て。痛くおもむきと
しむる。と念のあつて。瀧側たきがたの此こゝの箱はこ難がたと志こころのたつ
西国さいごくさしてぞ出でたり。はたは浦うら松まつのもども。そは義ぎ
の足あしぶらふおどろけ。さうさう。さる縁ゆかりあるまこと。よある
よ。とてあつて。あんがなま死しとあやうく。ねてそは心こゝろの
さあふ様よう洋やうのちねあり。う。それゆへに。さうか。さ
業わざの死しと。遠とほさる。あうん。ゆりの。まふかり。さあ縁ゆかり
ども。同どうあ地ち義ぎ。さふあふ。の。殃わざはひと。なす。死し。返かへ。付つ。と。能よ
あふ。お。返かへ。あり。じ。海うみ。は。力ちから。妙たぎ。用もち。の。や。さ。あ。う。と。

第四章

さちふ。大おほ。せ。ん。お。か。ま。て。は。地ち。義ぎ。と。浦うら。松まつ。ふ。り。あ。う。う。
れ。ふ。後あと。と。え。語ことば。清きよ。り。る。今いま。も。終はつ。は。終はつ。終はつ。あ。う。と。や
ね。亦また。友とも。深ふか。の。志こころ。井い。が。想おも。成なり。源げん。と。即すなはち。と。い。る。の。性せい。貨わ。別べつ
海うみ。ふ。し。と。若わか。年とし。の。以もつ。此こゝ。持もち。放はな。捨すて。の。う。人ひと。家いえ。業わざ。ふ。さ。う。り。終はつ。ふ
國くに。を。と。し。雨あめ。と。瀧たき。洄まが。り。と。瀧たき。側がた。の。此こゝ。と。あ。う。り。あ。あ。今いま。を。と。う
く。な。死し。術じゆつ。を。と。て。固こ。國くに。若わか。徑みち。山やま。の。た。く。羽う。尾び。山やま。の。死し。下した。ふ
腐くさ。し。心こゝろ。伏ふ。し。あ。う。て。名な。と。記しる。案あん。と。あ。う。と。め。風かぜ。や。の。葉は
小こ。谷たに。を。と。週しゅう。お。し。並なら。ぶ。く。神かみ。社やしろ。仙せん。客きやく。を。と。流なが。流なが。し。ま。し。と

おりひまき出たるが先都の地と唯澤とそれより中国と
 強て其後の西のりうや依八幡より喜山ふゆく及
 まがら五川の招がきたりふちり山の徳なるふさ
 かまらるは杉の葉とあつめ結て小祠のどく併りらる
 ころの小ざらぬ岩のうまきまきその中ふ教中常
 おまきと御徳と赤飯神保あまきとあまき入寒野野
 紙ふひぬりはくま糸あまきとの紙あまき及づれの縁
 人もあまきげふさうとてこの何のまきけあまき回ふ紙
 紙あまき入て是こそは疫瘧の神とあまき出せしあまき
 日あまきる我修験の役あまきれば散物とあまきあて御
 の料とあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 旅人あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 疫瘧とあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 別疫瘧の強弱とあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 あまきとあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 ほど下撰りあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 なることあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 してあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



観衆



6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

う。尚村よりかろういせし。疫神の勅物とうをいれ
 うりよ。今汝がやまきし。湯屋のありに。俄小悪宝を
 獲て。そのまきとらちをいせし。折角かろういせして。是れ
 こり小。疫神又村中ふまゆる。ひしよ。汝が海月湯を
 今入りそり。さゆ。あね。若。疫神あて。一命。汝の
 他。汝も。同。然。う。去。あ。う。て。汝。を。赤。殺。し。疫神が。怒。を
 宥。め。見。れ。く。ら。病。難。と。り。免。れ。ん。が。お。あ。ね。べ。速。く。死。す。と。云
 ぞ。と。毎。く。怒。り。の。と。お。あ。う。く。う。い。て。う。る。証。案。の。の
 ち。も。か。り。ひ。び。ど。湯。林。に。あ。り。ま。い。く。多。難。か。と。あ。い。て。ま
 ま。し。と。ひ。り。る。あ。ぞ。証。案。が。な。づ。け。の。旅。人。も。こ。ね。と。あ。て。
 され。と。これ。く。湯。を。見。ひ。ど。は。男。女。を。引。だ。せ。り。と。
 中。ふ。こ。け。入。ぬ。方。と。か。し。志。の。免。死。す。も。亦。向。ひ。必。死。す。
 所。旅。人。の。衆。如。小。似。せ。ぬ。と。又。その。病。ひ。と。去。り。ぞ。と。も
 業。を。あ。ね。が。こ。ぐ。湯。に。し。て。さ。れ。の。湯。屋。の。う。り。あ。る。と。が
 疫。神。不。加。お。新。獲。さ。せ。れ。あ。て。も。亦。殺。せ。る。所。に。その
 死。を。い。て。い。る。も。乳。母。あ。る。と。今。こ。ろ。あ。ら。う。と。云。を
 湯。屋。を。あ。ね。と。志。す。う。り。湯。ら。ぬ。て。く。物。は。く。い。き。る。を
 旅。人。が。知。り。ぞ。と。汝。を。以。て。疫。神。と。追。ひ。出。す。と。一。命。の





6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

符を指留して門戸ふもせ。程の清めの肉も清浄な
 招信淨の思文をもち入強うるに。あつた後結として
 起とうる。ふ夜宛まきりしと足て全く中不復し
 うる。肝あつたれば。奉承よろこび。銀糸小厚く礼謝し。
 糸持をかんとて。始終をいさふ。力のさる。あつたこれまぢ
 策中申すゆるもかぢ。ぢぢが。をいめてかゝる。始末を定て本
 言。まふふをうらがる。老急小一命をとりかゝんとせしも。
 一。終末の丹珠ふあぢ。病愈使ませし。こそあり。ご
 一。おのれ銀糸とさふ。さふめて。さふぐ。をさふ。らる。おぢ。
 け。おま。近は流布して。さる。難治の病をさる。あ。近く
 親家と。結して。加持祈禱と。おひ。ら。ゆ。あ。わ。ら。ぎ。ご。ふ
 け。み。あ。も。清。り。あ。ら。う。ち。あ。ら。う。か。成。安。の。ま。ふ。六。足。の。大
 托上。よ。う。ち。踏。く。踏。踏。一。わ。ら。う。ら。ゆ。あ。申。小。こ。ま。を
 見。れ。ば。は。大。難。を。う。り。あ。ら。う。首。あ。ら。う。ぶ。う。く。も。何。と。申
 公。さ。ら。ふ。あ。ら。う。追。ひ。ま。り。ご。ら。う。と。さ。て。目。さ。め。ら。る。が。志。け。ら
 小。公。あ。ら。う。ご。あ。ら。う。物。と。ま。ち。ち。て。起。出。銀。糸。ま。向。門。で。は。は。の
 お。も。む。じ。ら。う。う。あ。ら。う。勤。考。ま。り。ま。さ。ら。い。の。け。は。れ。ら。ら。ふ
 一。旭。の。太。高。村。の。あ。ら。う。も。ふ。ま。ら。ひ。伊。世。も。富。一。ら。う。が。

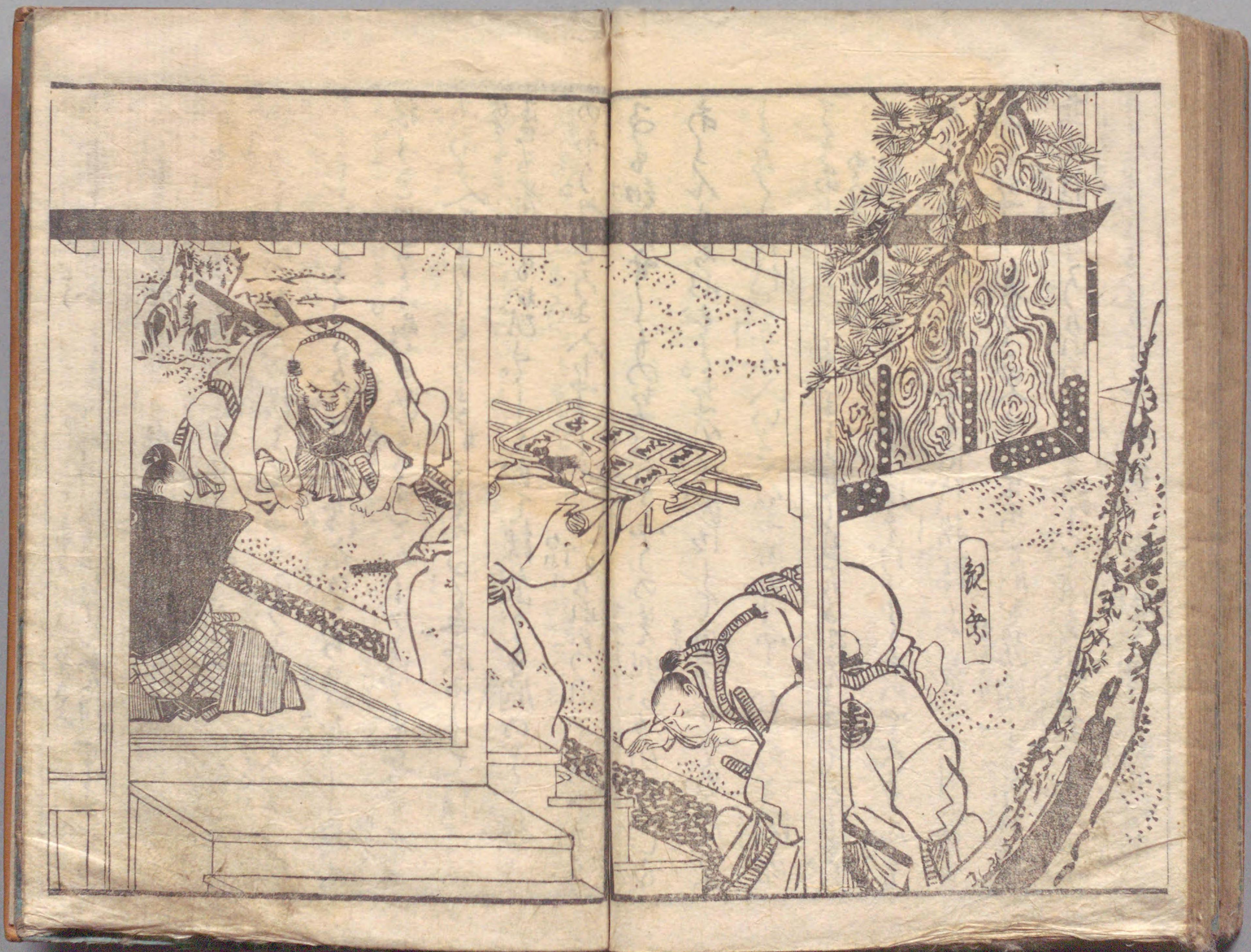






よこへ入る事おちかほ家小をせ来る。等々戸破りおどろ
 入りぬ。このものかふ起あがるおとりのておさへおれ先
 年勢列夜深ふおわて菅父志并源を束あふひ子
 我妹おまのまぬと被害。ま近なる業悪の始末
 日れよくあれり。かつらへ故源をき湯がお飲源をき
 いふかのあつり。初集のとれ國を。いぬばも方い見志
 依赤の蝦地村の浪人島中丹平我妻お母と密通
 之のて源信よこをせし。小。ま思を討する人。能人
 名よ言直ま。一命ふ之て汝とあやまを被母のふ
 なる小つけ。我人男と生れて。おんぞ他不戴天の仇とめる
 うせふまをさる。かくこせま。振討は切つ。若年を
 若れすのあぬば有さ。れをま。ま。を。糸入し
 あらう小あつり。二刀と引拔。いさる合。おれが。じや。勝
 老のい。く。さ。さ。が。激細と。ま。う。う。合。つ。む。み。か。よ
 なき。母が。源。迷。の。ま。り。ま。源。あ。る。源。を。ま。中。ま。と。う。ち。と。あ
 せ。我。て。ま。の。島。あ。る。丹。平。さ。ら。あ。て。も。よ。し。ま。の。島。あ。る。ま
 中。の。及。び。源。を。ま。と。い。ま。の。海。が。し。あ。る。ま。あ。ち。あ。げ。あ。る
 歌。よ。び。ま。行。ぬ。り。し。之。の。付。あ。し。く。あ。ん。と。む。八。割。は





208
2
157

二國一夜物語 全五冊	伎雙浪速梅 前後三冊	奇説暎草紙 全五冊	奇譚菟道園 全五冊	奇談紫雙紙 全五冊	古實今物語 全六冊	坂東濡衣雙紙 全五冊
---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------

奇談の世と久せし言説まじし小奇異ありしころ
傳て今西国小太角形物し。そ輕きものころなり。

文化四年丁卯春新版

書林
堀江六軒町
上總屋忠助梓

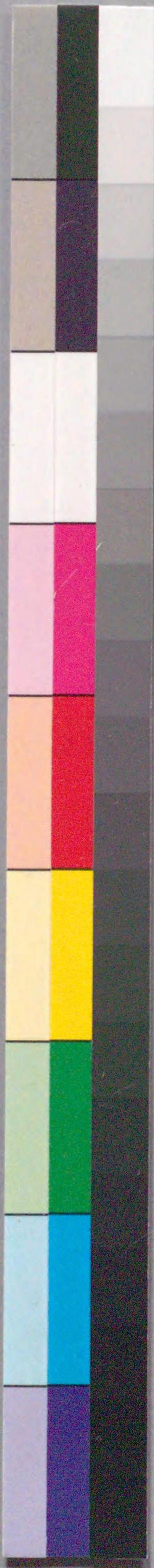


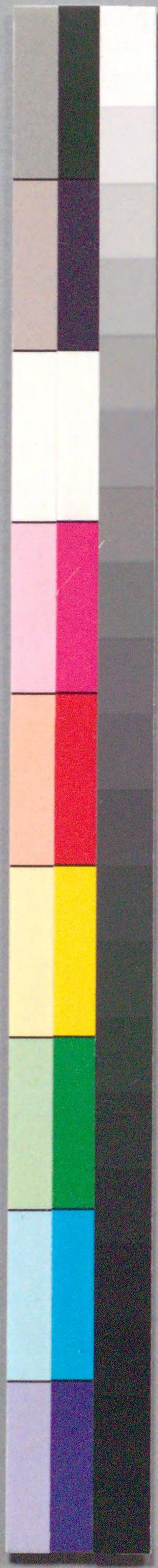
十返舎一九著
蹄齋北馬画

208
合 1
157

国立国会図書館 翁丸物語 208-157

ガラス使用





国立国会図書館 翁丸物語 208-157



ガラス使用

